

# 図書館だより

第5巻3号

通巻87号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

## 図書館と私

### ケンブリッジ大学図書館

教養部教授 橋本雄一

ケンブリッジ大学図書館は三百万冊を越す蔵書をもつ質量共に世界有数の図書館である。英国では大英博物館の附属図書館とオックスフォード大学ボールドリアン図書館と並ぶ。本を探すときは此處ではカード式ではなくタブロイド版の台紙に印刷した紙片を貼りつけた部厚いファイルが上下二列の棚にアルファベット順に並べてあるなかから著者名によって探す。著作は出版年度順に著者名の下に記され、追加を許す余白がとつてある。探している本の分類番号がわかつたら、壁にかけてある配置図でその本が何處にあるか探す。稀こう本などを除いて殆んど開架式で、自分で其處へ行つて書棚から見つけ出す。どの書庫内にも窓ぎわに机が並んでいて其處で読むようになってゐる。読んだ本はそのまま机上に置いて帰ることになっている。間違つた書棚に返されるのを防ぐため書棚に返すのは館員の仕事である。翌日も読みたいときは所定の用紙をはさんでおけば三日間はそのままにしてくれる。

この図書館は大学のいわば中央図書館で、このほかに三十を越す各コレッジにそれぞれ図書館があり、各学部学科の図書館(約五十)もあつて、学部学生はそちらを利用することになっている。中央図書館は教員、大学院生、卒業生、外部からの研究者のためのものである。

学部図書館もかなり充実している。私が利用した英文学部図書館は米文学関係はや、物足りない感じだったが。

とにかくケンブリッジ大学は素晴らしい環境とあいまって、調べたい資料をいつでもすぐに見ることができるところで、研究者にとつては天国のような所だと(私が英文学を専攻するので特にそう思ったのかも知れないが)今も思っている。

(はしもと・ゆういち・英文学)



今は想い出? 秋の定期試験準備風景

## 図書館と私

ケンブリッジ大学図書館

橋本雄一

リカードウと自由

美馬孝人

もくじ

## 古典の窓

高村光太郎生誕100年

環境を超える力

菱川善夫

開館時間 本館 月～金曜日 9:30～20:00 土曜日 9:30～18:00  
工学部分室 月～金曜日 9:30～17:00 土曜日 9:30～13:00

# 図書館利用あんない

## レファレンス・インタビュー 流通関連の参考文献について



昭和58年1月から昭和58年7月末まで参考係で受付た文献検索の内容を統計的にみると、経済学関係110件（教員，学生，学外）法学関係91件（教員，学生，学外）その他50件（教員，学生，学外）である。

この中から次のような質問に対してご紹介いたします。

**質問者**「流通問題について書かれた主要な文献がないか」

**担当者**「わかりました。しかし流通と言っても物的流通と取引流通とがあると思いますが」

**質問者**「取引流通に関する方です」

**担当者**「わかりました。本学に所蔵している主要な文献としては、次のような資料があります。

(1) 日本経済新聞社編『**流通ハンドブック**』（請求番号 675.01-R99）。

これは、流通領域全般にわたって記述された内容ですので良いかと思います。現在絶版になっています。

(2) 日刊工業新聞社出版，三上富三郎〔等編〕『**流通近代ハンドブック**』（請求番号 675.2-R99）

(3) 同友館から出版されている中小企業振興事業団編『**商業ハンドブック**』（請求番号 670.3-Sh95，などがあります。この他，日本経済新聞社から出版された『**流通経済の手引**』などが参考になります。

**質問者**「これらの資料は貸出できますか」

**担当者**「禁帯出ですので貸出はできません。しかし必要などころのコピーはできます。1枚15円（A3以外），出来上りは，明後日です。

申込はカウンターで行なって下さい。

**質問者**「はい，わかりました。今紹介して下さいました資料の中に流通に関する専門用語の解説は掲載されていますか」

**担当者**「専門用語を調べるには別な資料があります。

たとえば次のような資料です。

① 日本経済新聞社編，同発行『**流通用語辞典**』

（日経文庫）（請求番号 670.3-R99）

② 深見義一〔等編〕，中央経済社刊『**マーケティング辞典**』（請求番号 675.03-Ma52）

③ 同文館編，同発行『**マーケティング用語辞典**』（請求番号 679.03-Ma52），などがあります。

**質問者**「これらの資料の中で，参考になる資料はどれでしょうか」

**担当者**「各々編集者によって内容構成が少し異なっていますから自分の目的にあったものを選択して下さい。ただ一つ言えることは，流通に関する問題を調べる場合英語による用語が多く使われていますので，英語による語句が多く記載されているものが便利だと思います。更に英語による索引が付いているものはなお良いと思います。

**質問者**「わかりました。すみませんがこの他に流通に関する専門書がまとめられている二次文献はないでしょうか」

**担当者**「わかりました。本学に所蔵しているものでもっとも良いと思われるものに次のような資料があります。

(1) 日本能率協会『**総合マーケティング資料年報**』（請求番号 675.05-So28），があります。過去1年間に官公庁・民間諸機関から発表されたマーケティング関係のデーター・資料を網羅的に収録されている。またこのデーターを業務別に分類し，不定期・定期刊行物と2つに分けられています。この他本学に所蔵していませんが、『**中小企業のための情報所在リスト**』があります。一般に市販されていないようです。入手の場合は直接発行元に注文しなければなりません。これら主要な二次文献と言えます。もし『**中小企業のための情報所在リスト**』を入手したいのであれば申し出下さい。他館より借用することができます。

昭和57年より北海道地区大学図書館間において相互利用申し合わせを行ない，本館に所蔵してい



ない資料を利用者の希望に応じて**相互貸借**、**文献複写**、**直接利用**の三つのどちらかの方式で他の大学図書館を利用することができるようになっております。このことについて詳しくはカウンターでお聞き下さい。

以上で質問者に対する回答が終了しました。

レファレンスと資料が結びつけることによって、図書館の収書対象でありながら所蔵していないものを補充していく役割を果たすことになる。こうした積み重ねが蔵書を充実させていくことにつながります。また他の利用者にも答えることにもなります。

## アレキサンドリア図書館の風格

B D (ブックディティクション) ゲートをくぐり、ギリシャ神殿のような階段をのぼると総合フロアーに出た。そこでは学生さんたちがコンピューターに向い情報を検索している。総工費70億円、座席数3500を誇る金沢工大ライブラリーセンターはあたかもアレキサンドリア図書館のようである。

金沢工大ライブラリーセンターは単に工科大系専門図書館のワクの中でみるのは正しくない。それはむしろ総合的なライブラリーとして“啓蒙的な空間”を形づくっている。我々が学ばねばならないのはこの空間を形づくる“哲学”だろう。

「学ぶことは学者のみならずすべての人に共通の楽しみであろう。」このアリストテレスの言葉が啓蒙の森の標語になっている。金沢工大では何よりも“自ら学ぶ”ことが尊重され評価される。そのためには図書館は魅力あるものでなければならない。前国立国会図書館副館長から専任の図書館長となった酒井館長の夢はふくらむ。

かくてアカデミズムのワクを破るような新しい試みが次々と打ち出された。

- ①いつでもどこでも利用出来るオープンシステム (全面開架と年中無休の自習室) ②多様な情報系の設定 (とくにA Vシステムの導入)
- ③利用者サービスを重視するサブジェクトライブラリアン (講義を半分にして、教員

### 他館拝見 金沢工大ライブラリーセンター

蔵書数	26万冊 (25)
面積	22,600㎡ (2,100)
座席数	3,500席 (380)
貸出 <del>返</del> 本 (一日)	400冊 (100)
館員数	25人 (16人)
学生数	4,500人 (5,800)
( )内は本学	

分  
野  
別  
フ  
ロ  
ア  
ー  
→

8
7
6
5
4
3
2
1

演習・会議室	研究フロアー		閲覧室
電算センター	A Vコーナー	総合フロアー	A V
C A I 室	自習室	展示室 ゲート	ホール

学  
は  
楽  
な  
り

啓  
蒙  
的  
ラ  
イ  
ブ  
ラ  
リ  
ー  
空  
間  
を  
創  
造

集団を活用) ④機能重視の分類システム (N D Cにとらわれずカリキュラムに即した配架) ⑤迅速なサービスのための電算システム (カードレスライブラリー) ⑥科学史の古典収集  
これらは啓蒙的ライブラリーの具現化である。

かつて古代ギリシャのアレキサンドリア図書館は頭脳センターであった。『原論』の著者ユークリッドもその一人。図書館は学問を愛し創造する人たちのアクティブな空間だった。金沢工大ライブラリーセンターは学問を生涯に渡り愛し楽しむ人たちを育てるベースキャンプとなった。今金沢の地に大学図書館史を書きかえる出来ごとが確実に進行中である。

(川崎記・筆者は今夏7月14~16日まで第44回私立大学図書館協会総大会・研究会に出席)

# リカードウと自由

経済学部教授 美馬孝人

マルクスは『経済学批判』の中に、「『オーエン氏の平行四辺形』がブルジョア的社會形態のほかに彼の知っていた唯一の社會形態であるように思われる」(岩波文庫70ページ)と書いて、リカードウの社會認識における歴史的感覚の欠落を皮肉っているのであるが、そのリカードウが「オーエン氏の平行四辺形」なるものを知っていたのは、彼もまた当時の大衆的貧困に対して深い関心と同情を寄せていたからにほかならない。

オーエンの『自叙伝』によれば、ナポレオン戦終結後、1816年の恐慌における大衆的窮乏の觀察を重要契機として彼の「新社會觀」が一層明確で実践的な形をとってくるのだが、1817年救貧法委員会での証言を拒否された後、彼は直接一般大衆に訴えかける戦術をもとりはじめ、終生労働階級に希望をかけて絶望することを知らなかった。1817年にこの種の集会が2回もたれ、オーエンは彼の新社會計画を情熱をこめて宣伝したのであるが、その場所に多くの急進主義者とならんで、リカードウやトレنز大佐も出席していた(『リカードウ全集』第5巻、ロバート・オーウェン協会編『ロバート・オーウェン論集』所収の堀経夫論文を参照)。

1819年博愛主義者ケント公を中心に、「オーエン氏の計画を研究する委員会」なるものが組織され、ロバート・ピールやトレنزやリカードウも委員となった。「委員会」としてはオーエンに好意的な結論を出しはしたが、もちろんリカードウはオーエンの計画が空想的で、いくつかの経済学の原理——人口法則、土地収獲てい減法則、利益主導の生産力向上の法則——に反していると考えていた。したがって彼は1819年12月の下院演説で「経済学の原理と矛盾する理論に立脚しており……際限ない害を社会にまねくよう意図されたオーエン氏の制度には自分は完全に反対である」と述べたのであった(『全集』5巻32ページ)。

リカードウの「経済学」の立場からする「オー

エン氏の計画」への反対はその後一貫していたとはいえ、彼の「公益への熱意」は、全く立場を異にしながら公益に献身するオーエンの人間的な信念に共感を覚えざるをえなかった。1822年6月労働者から提起されたトラックシステム一律禁止の請願に対し、リカードウはオーエンの協同購買所を弁護しつつ、この請願に反対した。「オーエン氏は食糧給与制度を採用したと自慢した。彼はニュー・ラナークに店を開いてそこでよそで手に入れるよりもやすく彼の労働者に最良の商品を売った」(同223ページ)。リカードウはこの方法が有益なものであると信じていたのである。彼の自由論は公明正大な公益の増進と結ばれており、当時のブルジョア的打算にたつ自由放任論とは異質であった。その点をブルーアム卿は皮肉をこめて、リカードウが「他の遊星から突然飛来してきたかのような」のだと評したのである。

1819年12月、工業地帯で活発化しつつあった自然発生的な労働運動を阻止、鎮圧する目的で下院に提出され通過した「煽動集会防止法」にリカードウは少数派とともに2度にわたって反対投票した。彼は「剥奪される権利の重要性」に十分留意するよう求めつつ、この権利を「下院の国王に対する請願権と対比」させ、「もし人民が自分達を尊重してもらえるほどの人数で集会をすることができないならば、彼らの請願はなんら効力をもたないであろう」と反対演説をぶった。

1823年7月には、「自由な討論が社会に対して損害よりも利益をもたらしてきたのであり、宗教の問題についての意見の表明を理由としていかなる者にも法的刑罰を加えることは不当であり不適当である」という、結局は否決されることになる請願を、リカードウは弾固支持した。労働運動が資本家的生産にもたらす危険性や、信仰心を持つことの重要性について、リカードウは時代と共通する認識を十分すぎるほどもっていた。にもかかわらず公正無私な思想家であった彼は、ブルジョア



的限界をこえてそれらを自由にすることが結局人間社会の進歩になることを疑わなかったのである。

オーエンの新見解は当時の支配階級からみれば、「すべての宗教は虚偽でありすべての統治制度は悪だと断言する演説」(大蔵大臣の言葉)であり、不道德そのものと感ぜられていた。しかしリカードは思想信条の自由を支持して、無神論者と非難されていたオーエンの思想をもあえて弁護したのであった。「人は教義上の論点については非常に懐疑的でありながらも、しかも宗教的信仰とは区別された道徳的な感動の統御では非常に積極的だということがありうる。……たとえばラナークのオーエン氏だが、彼は社会にとって偉大な恩人ではあるがしかも来世の存在を信じない人であった。……オーエン氏は宗教上の問題について懐疑的であるがゆえに道徳的感情が劣っているといおうとする人がいるであろうか。名誉ないしは正直を自称する人で、オーエン氏は他人の状態を改善する

ために一生を過ごしたけれども、もし彼が宗教的義務の教えにもっと染まっていたとした場合に比べてみれば、彼の精神はさほど純粹ではなく彼の心はさほど真面目でなく、あるいは道徳的公正の抑制と統御についての彼の信念はさほど強くないという人がいるであろうか？」(同340～1ページ)。

経済学の「原理」とか「水準」といわれるものが実は短命な真理でしかないのに対して人類全体の幸福への熱意こそ永遠である。この熱意の持続とそれに耐えうる理論構築がなされた時、その理論は時代をこえるものになりうるのであろう。資本主義的大工業の本格的展開の直前に死んだリカードを評して、先のブルームは、政敵でさえもリカードを尊敬した一つの理由を、「正しい原理にそのすべての帰結にいたるまでしたがうという彼の性向」に求めたのであった。

(みま・たかと・社会政策学)



リカード  
Ricardo, David 1772-1832

古典派経済学を完成に導いたイギリスの経済学者。

主著『経済学及び課税の原理』  
On the principles of political  
economy and taxation, 1817

## 人と本

## リカード

### 本館所蔵文献

本文引用の『リカード全集』1-10巻(雄松堂, 1970-71)が本館に所蔵されている。

主著『経済学および課税の原理』は「経済学の名著12選(玉野井芳郎他編)学陽書房, 1973)に収録されている。

このほか開架コーナーにある『リカード研究』(羽島卓也, 未来社, 1982)や『リカード体系』(田中廣治, ミネルヴァ書房, 1975)などが手ごろな入門書となっています。

# 資料案内

## ◆教養関係◆

現代の哲学1, 2 P.リクール著 坂本賢三〔等〕訳 岩波  
1982 101 R36

方法への挑戦—科学的創造とアナーキズム— P.K.ファイ  
ヤーベント著 村上陽一郎 渡辺博訳 新曜社 1981  
115.3 F23

記号学研究2 日本記号学会編 北斗出版 1982  
116.3 N77

偶然と必然—弁証法とはなにか— 鈴木茂著 有斐閣  
1982 (有斐閣選書) 116.4 Su96

日本古代思想史の研究 井上光貞著 岩波 1982  
121.02 I57

ホッブズ研究序説 近代国家論の生誕 田中浩著 御茶の  
水書房 1982 133.23 Ta84

心理学と社会—その歴史と現代の課題— H.トーマ著 石  
田幸平訳 新曜社 1980 140.2 Th5

エロスの文明 H.マルクーゼ著 南博訳 紀伊国屋 1958  
146 Ma51

フロイトを読む—解釈学試験— P.リクール著 久米博訳  
新曜社 1982 146 R36

ドイツの歴史家1 H.U.ヴェーラー編 ドイツ現代史研究  
会訳 未来社 1982 201.28 W54

戦後歴史学の思想 石母田正著 法政大学出版会 1977  
204 I78

南蛮人の日本発見 松田毅一著 中央公論社 1982  
210.04 Ma74

日本近代化の世界史的位 置 その方法論的研究 芝原拓自  
著 岩波書店 1981 210.6 Sh16

北海道史概説 奥山亮著 札幌 みやま書房 1958  
211 O57

中国伝来物語 寺尾善雄著 河出書房新社 1982  
222.01 Te58

現代人の西洋史 古賀秀男〔等〕著 法律文化社 1979  
230.1 Ko24

ナチズム体制の成立 ワイマル共和国の崩壊と経済界 栗  
原優著 京都 ミネルヴァ書房 1981 234.07 Ku61

(昭和58年7月～9月に受入整理された図書の)  
うち主なものを選択して掲載してあります。

風俗の人間学 小関三平著 世界思想社 1979 (世界思想  
セミナー) 304 Ko83

歴史と文明の探求上, 下一文明問題懇談会全記録— 桑原  
武夫 中根千枝 加藤秀俊編 中央公論社 1976  
304 Ku95

秋永肇教授古稀記念論〔文〕集 田口富久治 田中浩 西尾  
孝明編 御茶の水書房 1982  
現代民主主義の諸問題 311.8 A36

比較ファシズム研究 浅沼和典 河原宏 柴田敏夫編 成  
文堂 1982 311.9 A87

アメリカのユダヤ人—二重人格者の集団— J.ヤフェ著  
西尾忠久訳 日本経済新聞社 1972 316.88 Y14

自治研修叢書—都市化時代の行政哲学— 第一法規 1980  
318.08 J47

市民社会と社会主義 平田清明著 岩波 1969  
330.4 H68

社会主義と市場—経済改革のハンガリー・モデル— C.ベ  
ーラ著 盛田常夫訳 大月書店 1981 332.347 B33

公共政策論 鈴木守著 東海大学出版会 1981  
333.01 Su96

組織の知的生産力 B.ヘアーズ G.O.パーソン著 京極純  
一解説 大森彌訳 学研 1981 335.94 H51

社会学 福武直編 有信堂 1982 (New College Books)  
361.01 F84

現代社会の歴史的位相—疎外論の再構成をめざして— 山  
之内靖著 日本評論社 1982 361.01 Y39

産業社会学講義—日本的経営の革新— 尾高邦雄著 岩波  
書店 1981 361.4 O17

地域的情報メディアの実態 東京大学新聞研究所編 東大  
出版会 1981 361.48 To46

現代社会心理学の動向1～6 C.A.キースラー編 広田君  
美監訳 誠信書房 1977—1980

1. 社会交換の心理学
2. 対人知覚の心理学
3. 同調行動の心理学
4. 態度変容と行動の心理学
5. 対人的魅力の心理学
6. 組織化の心理学

361.5 G34

現代社会心理学の発展1 三隅二不二 木下富雄編 ナカ  
ニシヤ出版 1982 361.5 G34

カルチャー・ショックと日本人—異文化対応の時代を生き



るー 荻野恒一 星野命編 有斐閣 1983(有斐閣選書)  
361.5 O25

現代社会心理学 島田一男著 プレーン出版 1978  
361.5 Sh36

権威主義的人間—現代人の心にひそむファシズム— 曾良  
中清司著 有斐閣 1983 361.5 So54

時代精神 1, 2 E.モラン著 宇波彰訳 法政大学出版局  
1982 361.6 Mo57

日本人は日本的か—特殊論を超え多元的分析へ— 杉本良  
夫 R.マオア著 東洋経済新報社 1982 361.6 Su38

組織理論の諸潮流—科学理論的必要条件と古典的諸研究方  
向の批判的分析 1, 2— A.キーザー H.クビチェック著  
田島壮幸監訳 千倉書房 1981 362 Ki14

復権思想の展開—現代社会思想批判— 内藤昭著 改訂版  
新評論 1982 363.02 N29

性格と職場適応 横田澄司著 プレーン出版 1978  
366.99 Y78

情報数学の基礎 上坂吉則著 培風館 1977  
410.1 U47

心身症—葛藤としての病 2— A.ミッチャーリヒ著 中野  
良平訳 法政大学出版局 1983(りぶらりあ選書)  
493.09 Mi62

フローチャート入門—例題と演習— 河名進著 産報  
1973 549.9 Ka96

日本語学書誌 荒木伊兵衛著〔復刻版〕日本図書センタ  
ー 1982 830.31 A64

実用英語入門シリーズ 文英堂 1981  
まよわず書ける英文手紙—書き方と文例—(福田利子著)  
830.8 J55

ロシア語会話の基本型 A.アキーシナ H.フォルマノフス  
カヤ著 現代ロシア語編集部編 現代ロシア語社 1976  
887.8 A36

戦後史の空間 磯田光一著 新潮社 1983(新潮選書)  
910.26 I85

イギリス文学ノート—思索と体験— 平井正穂著 八潮出  
版社 1982 930.2 H64

文学批評のこころ 矢本貞幹著 研究社出版 1982  
930.2 Y49

近代ドイツ文学論集 小栗浩著 東洋出版 1982  
940.4 O26

## ◆ 経 済 関 係 ◆

アダム・スミスの社会科学体系 A.S.スキナー著 田中敏  
弘〔等〕訳 未来社 1981 301 Sk

経済学説史 美濃口武雄著 青林書院新社 1981  
331.2 Mi46

マルクス資本蓄積論の研究 平野厚生著 青木書店 1981  
331.34 H66

自主管理の政治経済学—生産と分配— M.コーラッチ著  
山崎洋訳 日本評論社 1982 331.34 Ko79

マネタリストとケインジアン—どちらが名医か— 伊賀隆  
菊本義治 藤原秀夫著 有斐閣 1983(有斐閣選書)  
331.39 I22

STEPS—電算機による計量経済分析— 杉浦一平〔等〕  
編 東洋経済新報社 1981 331.39 Ma89

新国際価値論—不等価交換論と周辺— A.エマニュエル  
〔等〕著 原田金一郎訳 柘植書房 1981 331.52 E53

講座日本経済上, 下 金森久雄編著 中央経済社 1982  
332.1 Ka45

目で見る日本の経済・産業・企業—歴史・現状・将来—  
小林進編著 東洋経済新報社 1981 332.1 Ko12

一九三〇年代の日本経済—社会経済史学会第49回大会共通  
論題報告集— 社会経済史学会編 東大出版会 1982  
332.1 Sh12

ソ連経済史 A.ノーフ著 石井規衛 奥田央 村上範明訳  
岩波 1982 332.38 N97

小さな政府の経済学—規制と競争— J.J.スティグラー著  
余語将尊 宇佐美泰生訳 東洋経済新報社 1981  
333.01 St 6

世界経済の秩序とパワー—多極化時代の国際関係— 荒川  
弘著 有斐閣 1983 333.6 A63

国際経済関係論 J.E.スベロ著 首藤信彦 馬田啓一 小  
浜裕久訳 好学社 1982 333.6 Sp 4

国際経済秩序の進展 W.A.ルイス著 原田三喜雄訳 東洋  
経済新報社 1981 333.8 L59

西洋経営史を学ぶ上, 下 小林袈裟治 米川伸一 福応健  
編 有斐閣 1982(有斐閣選書) 335.02 Ko12

現代経営学 1, 2, 5, 7, 10 大沢豊〔等〕編 有斐閣  
1981—1982

1. 現代経営学入門—変動する企業環境と経営の機能—  
(一寸木俊昭編)
2. 現代の企業戦略—成長と生き残りのための理論—  
(土屋守章編)
5. 組織の中の人間行動—組織行動論のすすめ—(二村

敏子編)

7. 現代の労務管理と労使関係—高齢化・高学歴化への  
適応— (津田真澄編)  
10. 現代の日本的経営—国際化時代の課題— (津田真澄  
著) 335.08 G 34

経営管理思想 J.チャイルド著 岡田和秀 高沢十四久  
斎藤毅憲訳 文真堂 1982 335.9 C 45

日本的経営と産業社会 津田真澄 名東孝二 青沼吉松編  
新評論 1982 335.9 Ts34

組織と人間行動 関本昌秀 横田澄司 正田亘監修 泉文  
堂 1982 (企業の行動科学シリーズ) 335.94 So63

日本の人事労務管理 吉川栄一著 有斐閣 1982  
335.95 Y 89

国際金本位制とロンドン金融市場 西村閑也著 法政大学  
出版会 1980 337.31 N 84

東京マネー・マーケット—金融革命の焦点=短期金融市場  
— 森田達郎 原信編 有斐閣 1983 (有斐閣選書)  
338.13 Mo66

日本の金融政策—金融メカニズムの実証分析— 堀内昭義  
著 東洋経済新報社 1980 338.3 H 89

金融政策と銀行行動 岩田一政 浜田宏一著 東洋経済新  
報社 1980 338.3 I 97

- 銀行実務総合講座 1～5 金融財政事情研究会  
1980—1981  
1. 預金 (堀内仁〔等〕著)  
2. 貸出 (松本崇〔等〕著)  
3. “下 (鈴木正和〔等〕著)  
4. 内国為替 (日沖健 松本貞夫著) 付随業務 (西尾信  
一著)  
5. 外国為替 (和島雄三〔等〕著) 338.5 G 46

国際金融の政治経済学 浜田宏一著 創文社 1982 (数量  
経済学選書) 338.9 H 22

マルクスとミード—知識社会学への寄与— T.W.ゴフ著  
河村望監訳 御茶の水書房 1982 361.6 G 56

変わりゆく婦人労働—若年短期未婚型から中高年既婚型へ  
— 高橋久子編 有斐閣 1983 (有斐閣選書)  
366.35 Ta33

労働と人間行動 正田亘〔等〕著 東京 泉文堂 1981 (企  
業の行動科学シリーズ) 366.94 R 59

西ヨーロッパ工業史—産業革命とその後1750—1968—1,  
2— D.S.ランデス著 石坂昭雄 富岡庄一訳 みすず  
書房 1980 502.3 L 22

ビジネス参謀のパソコン活用法 清野裕司著 泉文堂  
1981 549.9 Se19

産業組織論 植草益著 筑摩書房 1982 601 U 39

現代日本産業論 狭間源三 木村敏男編 新版 法律文化  
社 1979 602.1 H 49

産業構造の転換と巨大企業 木村敏男編 東大出版会  
1982 (大阪市立大学経済研究所所報31) 602.1 Ki39

経済学的神話—エネルギー、資源、環境に関する真実—  
N.ジョージ・ジェスク・レーゲン著 小出厚之助〔等〕編訳  
東洋経済新報社 1981 602.9 G 35

農業経済学の軌跡—農業経済学会50年の歩み— 逸見謙三  
梶井功編 農林統計協会 1981 610.4 H 52

現代資本主義と農業問題 井野隆一著 大月書店 1975  
611.01 I 55

戦後農政と農業法 宮原幸則著 農林統計協会 1981  
611.1 Mi73

農法展開の論理 農法研究会編 御茶の水書房 1975  
611.12 N 93

食糧の経済—真の豊かさを求めて— 宮村光重 吉田忠編  
ナカニシヤ出版 1981 611.3 Mi78

農産物過剰—その構造と需給調整の課題— 梶井功編著  
明文書房 1981 611.4 Ka22

現代社会主義の農業問題 大崎平八郎編著 京都 ミネル  
ヴァ 1981 612 O 73

日本農業の選択—農と食をつなぐ文化の再生— 安達生恒  
著 有斐閣 1983 (有斐閣選書) 612.1 A 16

イギリス農業論 M.フェスカ著 椎名重明 津谷好人訳  
御茶の水書房 1982 (御茶の水選書) 612.33 F 22

小売り協業の発想—大型店なんか怖くない— 岩井正和著  
ダイヤモンド社 1982 673.7 I 93

広告の社会心理学 渋谷重光編著 プレーン出版 1978  
674.9 Sh23

国際マーケティング管理 P.R.カトーラ J.M.ヘス著 角  
松正雄 江夏健一 竹田志郎監訳 京都 ミネルヴァ  
1979 675.01 C 26

現代日本の物流問題 谷本谷一著 新評論 1980  
675.01 Ta88

## ◆法 学 関 係◆

日本の中国学家 严紹鏊著 北京 中国社会科学出版社  
1980 (国外研究中国双書) 281.03 G 34

美国中国学手冊 中国社会科学院情報研究所編 北京 中  
国社会科学出版社 1981 (国外研究中国双書)  
285.3 C 62

陳独秀 横山宏章著 朝日新聞社 1983 (朝日選書230)  
289.22 Y 79



- 政治社会学入門 T.ボットモア著 小山博也訳 新評論  
1982 311 B66
- 現代政治学の理論上, 下 白鳥令編 早稲田大学出版部  
1981 311.1 Sh86
- 大正デモクラシー期の政治思想 米沢幸二著 研文出版  
1981 311.21 E39
- マクファースンの民主主義理論 西尾敬義著 御茶の水書  
房 1982 311.8 N86
- 世界政治ハンドブック 飯坂良明〔等〕編 有斐閣 1982  
(有斐閣選書R4) 312 Se22
- 現代日本の政治と風土 若田恭二著 京都 ミネルヴァ  
1981 312.1 W27
- 奪われた権力上, 下—ソ連における統治者と被統治者—  
E.カレル＝ダンコース著 尾崎浩訳 新評論 1982  
312.38 C22
- ソビエト政治と労働組合—ネップ期政治史序説— 下斗米  
伸夫著 東大出版会 1982 312.38 Sh54
- 現代アメリカ政治の軌跡—袋小路に入った超大国— A.ウ  
ルフ著 杉本正哉訳 日本経済新聞社 1982  
312.53 W84
- 戦後自治体改革史 鳴海正泰著 日本評論社 1982  
318 N53
- 国際政治の世界—第二次大戦後と国際システム変容と将来  
の展望— 細谷千博 臼井久和編 有信堂 1981  
319 H95
- 相互依存の国際政治学 鴨武彦著 第2版 有信堂 1979  
319 Ka19
- 明治初期の日本と東アジア 石井孝著 有隣堂 1982  
319.12 I75
- 日本人の法観念—西洋的法観念との比較— 大木雅夫著  
東大出版会 1983 321.3 O51
- ソビエト法概論 藤田勇〔等〕著 有斐閣 1983 (有斐閣双  
書入門基礎知識編) 322.98 F67
- 法女性学のすすめ—女性からの法律への問いかけ— 金城  
清子著 有斐閣 1983 (有斐閣選書) 323.01 Ki44
- 司法のあり方と人権 芦部信喜著 東大出版会 1983 (U  
P選書227) 323.04 A92
- 憲法現代史 下 —安保と憲法— 長谷川正安著 日本評論  
社 1981 323.4 H36
- 日本国憲法 写楽編集部編 小学館 1982 (写楽ブックス)  
323.4 Sh11
- 行政法 田中二郎著 新版 勤草書房 1977 (法学双書3)  
323.9 Ta84
- 行政法上, 中 田中二郎著 新版(全訂2版) 弘文堂  
1974—1975 (法律学講座双書) 323.9 Ta84
- フランス行政法 J.リヴェロ著 兼子仁 磯部力 小早川  
光郎編訳 東大出版会 1982 323.99 R49
- 民事裁判例索引26—29 (昭和50年—昭和53年) 最高裁判所  
事務総局編 法曹会 1979—1982 p324.098 Sa21
- 罪を犯す人びと—心理学的考察— G.ナス著 石田幸平訳  
新曜社 1974 326.34 N55
- 現代刑罰法大系 3, 4, 6, 7 日本評論社 1982  
3. 個人生活と刑罰 (中谷瑾子〔等〕著)  
4. 社会生活と刑罰 (書上由紀夫〔等〕著)  
6. 刑事手続2 (木村榮作〔等〕著)  
7. 犯罪者の社会復帰 (宮沢浩一〔等〕著)  
326.4 G34
- 民事訴訟法 石川明〔等〕著 木川統一郎 中村英郎編 改  
訂版 青林書院新社 1983 (青林双書) 327.2 I76
- 演習民事訴訟法 鈴木正裕〔等〕著 有斐閣 1982 (法学教  
室選書) 327.2 Su96
- 法・訴訟・裁判 渡邊綱吉著 青林書院新社 1082  
327.2 W46
- 仮差押・仮処分 菊井維大 村松俊夫 西山俊彦著 3訂  
版 青林書院新社 1982 (現代実務法律講座)  
327.34 Ki26
- 仮処分の諸問題 吉川大二郎著 増補 有斐閣 1968  
327.34 Ki78
- 実務破産法 大野文雄 矢野正則編 青林書院新社 1982  
327.36 O67
- 刑事訴訟法入門 田宮裕著 3訂版 有信堂高文社 1982  
327.6 Ta81
- フランス政治経済学の生成—経済・政治・財政の諸範疇を  
めぐって— 木崎喜代治著 未来社 1976  
331.235 Ki55
- 社会化と政治体制—東欧社会主義のダイナミズム— W.ブ  
ルス著 大津定美訳 新評論 1981 331.34 B78
- 現代の帝国主義—西ドイツ国家独占資本主義— ドイツ社  
会主義統一党付属社会科学研究所編 振津純雄訳 盛書  
房 1980 333.934 D83
- 西ドイツ所得税法法文集 (邦訳) 81年編 中川一郎編 日  
本税法学会運営委員会訳 税法研究所 1983  
345.3 N32
- 社会調査方法史 G.イーストホープ著 阿久津昌三〔等〕訳  
川合隆男 霜野寿亮監訳 慶應通信 1982  
361.7 E11
- 多元的社会主義の政治像—多元主義と民主集中制の研究—  
田口富久治著 青木書店 1982 363.01 Ta19

コミンテルンと日本 1919年3月-1922年1月 川端正久  
著 法律文化社 1982 363.56 Ka91

犯罪の社会学-戦後犯罪史- 間庭充幸著 社会思想社  
1982 (社会思想セミナー) 369.12 Ma44

徴兵令制定史 松下芳男著 増補版 五月書房 1981  
391.2 Ma88

## ◆工 学 関 係◆

マルカタ南1 古代エジプト調査委員会編 早稲田大学出  
版部 1983 242 Ko17

琵琶湖・淀川・大和川-その流域の過去と現在- 野外歴  
史地理学研究所編 藤岡謙二郎監修 大明堂 1983  
291.018 Y15

応用統計学-分散分析と回帰分析- O.J.ダン V.A.クラ  
ーク著 中村慶一訳 森北出版 1974 350.1 D97

統計入門 松下嘉米男著 第2版 岩波 1981 (岩波全書  
212) 350.1 Ma88

初等統計解析 S.S.ウィルクス著 林周二訳 東大出版会  
1955 350.1 W73

日本文化の型と形 杉山明博著 三一書房 1982  
383 Su49

さっぽろ昔話 明治上, 下, 大正 札幌 みやま書房 1978  
(ふるさとシリーズ5~7) 388.11 Sa68

現代科学における数学概説1, 2 後藤憲一著 共立出版  
1981 410.1 G72

技術者のための数学の要点1-線形数学・計算法- 理工  
図書 1982 410.8 G43

やさしい線形代数 梅沢敏夫著 培風館 1981  
412.3 U74

実験公式の求め方 増山元三郎著 増補版 竹内書店  
1972 (現代応用数学双書) 418.8 Ma69

理工系のための統計的推論-推定・検定・予測- 多賀保  
志著 山海堂 1978 418.8 Ta17

流体力学1, 2 H.ラム著 今井功 橋本英典訳 東京書  
籍 1978-1981 423.8 L16

土木技術者のための地質学入門 田中治雄著 山海堂  
1964 450.1 Ta84

雪崩の世界から 新田隆三著 古今書院 1981  
451.66 N88

土木技術者のための岩石・岩盤図鑑 三木幸蔵 古谷正和  
著 鹿島出版会 1983 458.1 Mi24

品質管理入門A, B 石川馨著 日科技連 1964-1966

(QCテキスト・シリーズ1A, 1B) 509.6 I76

品質管理のための統計的方法入門 鐵健司著 日科技連  
1977 509.6 Ku72

土木技術者への計画と管理のための予測手法 吉田信夫著  
山海堂 1974 509.6 Y86

最新コンクリート技術選書6-海洋コンクリート・水中コ  
ンクリート 村田二郎監修 山海堂 1982  
511.7 Sa22

測量設計シリーズ14-土地改良事業施設の調査計画- 山  
海堂 1982 512.08 So32

川に想う-世界の河川- 安芸皎一著 古今書院 1983  
517.04 A34

消波構造物 近藤淑郎 竹田英章著 森北出版 1983  
518.4 Ko73

計量都市計画-都市計画システムの手法と応用- 天野光  
三編 丸善 1982 519.8 A43

都市計画入門 松井達夫 橋本経吉著 改訂 コロナ社  
1980 (基礎土木工学講座11) 519.8 Ma81

土地区画整理の事業計画 都市整備研究会編 理工図書  
1980 519.86 To72

土地区画整理の換地設計 都市整備研究会編 理工図書  
1977 519.86 To72

土地区画整理大意 都市整備研究会編 理工図書 1962  
519.86 To72

建築概論 建築概論編集委員会編 彰国社 1982  
520.1 Ke41

革命と建築 E.リシツキー著 阿部公正訳 彰国社 1983  
520.4 L68

空間の原型-すまいにおける型の比較文化- 上田篤 多  
田道太郎 中岡義介編 筑摩書房 1983 520.4 U32

建築技術選書14-設計のコンピューター手法-建築とコン  
ピュータ2- 学芸出版 1980 520.8 Ke41

小規模鉄骨造建築物設計施工指針 (多雪地用建物追捕)  
鋼材倶楽部編 技報堂 1982 524.6 Ko98

建築計画-計画・設計課題の解き方- 柳沢忠[等]著 共  
立出版 1980 525.1 Y52

これだけは知っておきたい建設業の数字に強くなる本 掛  
井連著 鹿島出版会 1983 525.7 Ka24

都市住宅8207 [特集部分保存版] 歩車共存道路の理念と実  
践 鹿島出版会 1983 527.05 To72

現代電子計算機-ハードウェア- 萩原宏 黒住祥祐著  
オーム社 1982 549.9 H14



# 受入雑誌

(昭和58年7月～昭和58年9月現在)

[亜細亜大学]アジア研究所紀要 9:1982+  
弘前大学教育学部紀要 49:1983+  
鹿児島大学史学科報告(鹿児島大学教養部) 31:  
昭57+  
[慶応義塾大学]経済学部日吉論文集 25-31:  
1980-1983+  
鹿児島大学体育科報告(鹿児島大学教養部) 15:  
昭57+  
熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編 18:  
1983+  
松阪大学松阪政経研究 1:昭57+  
明治大学法学会誌 33:1983+  
宮崎大学工学部研究報告 3-4, 6-28:1957-1958, 1959-1982+  
宮崎大学教育学部紀要 芸術・保健体育・家政・技術  
芸術・保健体育・家政・技術 53:昭58+  
人文科学 53:昭58+  
社会科学 53:昭58+  
自然科学 52/53:昭58+  
[長崎総合科学大学地域経済研究所]研究所報 2:  
1983+  
[名古屋大学]総合保健体育科学センター年報 5:  
1981(1983)+  
[奈良女子大学文学部]外国文学研究 1-5:  
1978-1983+  
[日本大学大学院]ソシオロジクス 5:1982+  
[日本大学商学部商学研究所]商学研究 1:1983+

大阪工業大学建築学科卒業論文梗概集 10-13:  
昭54-昭57(昭55-昭58)+  
大阪工業大学建築学科卒業設計作品集 4-6:  
昭54-昭56+  
立教大学社会学部紀要 応用社会学研究 24:  
1983+  
龍谷大学社会科学研究所所報 14:1983+  
[成城大学大学院文学研究科]コミュニケーション  
紀要 1:1983+  
[創価大学]教育学部論集 14:1983+  
多摩美術大学研究紀要 1:昭57(昭58)+  
帝京大学文学部紀要  
英語英文学・外国語外国文学 14:昭57(昭58)+  
国語国文学 14:昭57+  
教育学 7:昭57+  
[東北大学教育学部]研究集録 12-13:1981-1982+  
東海大学札幌教養部集報 1:1983+  
東海大学紀要教養部 1-13:1971-1982+  
常葉学園大学研究紀要教育学部 1-3:昭55-昭57+  
徳山大学研究叢書 1:1983+  
東京電機大学工学部研究報告 人文・社会・外国語・保健体育系列編 1:1982+  
[東京電機大学]総合研究所報告 1-2:昭57-昭58+  
[東京工業大学]比較文化雑誌 1:1982+

4年生にとっては、いよいよ就職試験をむかえご苦労さまです。今年も昨年にまして就職難ときいております。頑張ってください。

おそらく図書館にもあまり足を運ぶひまがないと思います。しかし学生生活も後少しです。1冊でも多く本を読み豊富な知識を身に付けて下さい。

今回の「だより」は、美馬孝人経済学部教授より投稿『リカードと自由』とい



う論題を中心に編集しました。この紙面をおかりして投稿下さいました美馬先生にお礼を申し上げます。

年々「だより」の内容が充実してきていますのは、いうまでもなく皆様方の熱心なご愛読とこれに対するご意見、ご希望等があればこそであります。引き続きいっそうのご愛読をお願いいたします。次号は、冬休み終了後の予定です。

## 古典の窓

## 高村光太郎生誕一〇〇年

高村光太郎は、戦時中、文学報国会詩部会会長を務めていたが、戦後それを恥じ、自己断罪のため、花巻の奥にある太田村山口で農耕自炊の生活に入った。そこで「暗愚小伝」を書き、詩集『典型』を刊行したことは、よく知られていることである。

雪白く積みり。

雪林間の路をうづめて平らかなり。

ふめば膝を没して更にふかく

その雪うすら日をあびて燐光を發す。

とか

眼に暗緑の盲点をちらつかせ、

四方の壁の崩れた廢墟に

それでも静かに息をして

ただ前方の広漠に向ふといふ

さういふ一つの愚劣の典型。

といった作品によって、雪ふかい山中の生活の一端はうかがうことができる。

しかし作品に表現されている以上に、実際の光太郎の山荘生活はすさまじいものであった。十年ほど前に、その山荘を訪れて、私は私の想像の域をはるかに超えていることに驚いたものだ。中公文庫の『日本の詩歌・高村光太郎』の表紙にも、写真になってのっているけれど、遠くから見ると、小さいながら、がっしりとしたつくりの建物に見える。しかしあれはさや堂で、実際の光太郎の山荘は、その中にかくされているのである。老朽化の進行を防ぐために、さや堂ですっぽりと覆い、時間の腐蝕から守っているのだ。だから写真を見て、光太郎の山荘もなかなか立派だったのだな、と感心してはならない。実際の中味は、今日のどんな貧しい学生の下宿でも、光太郎の山荘に比較すれば、なお王宮のごとく豪華である、と言っていいほど、光太郎の仮ずまいはひどいものなのだ。水道もなければ電気もない。簡単な流し場に、二・三の鍋釜があり、やっと膝をいれるに足る机があるだけだ。夏の間は、どうやって蚊をふせいだのか。雪が膝を没する冬のきびしさも、想像

以上のものだったに違いない。近くに家があるわけでもない。その孤独の中で耐え抜くには、よほど強靱な精神力と、逞しい肉体に恵まれていなければむずかしいだろう。

光太郎が、この山荘に別れを告げたのは、昭和27年のことである。十和田湖畔の裸婦の制作のために帰京したのだが、20年から27年まで、実に満七年の長い間を、そこで過ごした計算になる。年令で言うと、63歳から70歳という年令にあたる。私はまだ、光太郎のその年令に手のとどく年ではないが、現在の私の年令で考えても、同じ生活を送るとなると、よほどの覚悟が必要で、とても私には耐え抜ける自信はない。

『典型』にはさまざまな批判が集中し、光太郎の自己摘発がどこまで徹底していたか疑わしいと見る意見もあるけれど、しかしそれを批判する者も、光太郎の自己流瀆が、いかにきびしい環境の中で営まれていたかを、十分承知した上で批判する必要があるだろう。

光太郎は山荘生活を続けていた時、夜になると、近くの丘の上へのぼり、真っ暗な夜空にむかって、大きな声で「チエコー」と、智恵子の名を叫んだという。その声は、はっきりと村人の耳にもとどいたという。もちろん智恵子は、もはやこの世の人ではない。しかし光太郎にとって、智恵子は、宇宙精気となって、あまねくひろい空間に適するものに変っていた。肉体を持つ限定された存在から絶対的なものにかわっていたのである。その絶対的存在にむかって光太郎は呼びかけたのだ。呼びかけることで、光太郎は瞬時にして狭い環境を超えることができた。

環境に支配され、環境を整備すれば、何かが変わる、というのは今日ふうの考え方だが、それはまやかしにすぎないのではないか。光太郎が、一貫して私に教えてくれたのは、環境を超える力の存在と、その力の巨きさである。

(ひしかわ・よしお・教養部教授)

## 環境を超える力

菱川善夫

北海学園大学附属図書館報

図書館だより

Vol. 5 No. 3 (通巻87号)

北海学園大学附属図書館

一本 館一

—工学部分室—

〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

電話(011)―841―1161(代表)

(内線)総務係272, 閲覧274~275, 図書係273

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

電話(011)―561―2911(内線)64